

ISO/TC225 WG1 第 8 回会議、TC225 第 11 回総会 参加報告

ISO/TC225 国内委員会 委員長 一ノ瀬 裕幸
同委員 浅野 怜祐

1. 国際会議の概要

ISO20252 の改訂 (ISO26362 の組込みを含む) を担当する WG1 会議 (通算 8 回目) と TC225 の第 11 回総会が、東京で開催された (日本での WG 開催は 11 年ぶり、総会は初)。

会議初日の冒頭に、経済産業省国際標準課統括基準認証推進官の中野裕二様よりご挨拶をいただき、JMRA が経済産業省の厚い信任の下に本取り組みを推進していることをアピールすることができた。また、楽天リサーチの田村篤司社長からも歓迎のスピーチをいただいた。

(1) TC225/WG1

日 時： 2017 年 4 月 19 日 (水) ～21 日 (金) 午前

会議名： ISO/TC225 WG1 第 8 回国際会議

参加者： WG1 メンバー (6 カ国+4 オブザーバー機関、計 18 名参加)

Chairman: Mr. Don Amberse (カナダ MRIA 代表)

Secretary: Mrs. Natalia Oritz de Zarate (スペイン UNE 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、カナダ(議長国：2)、イギリス(2)、オランダ(2)、
オーストリア/ドイツ*1(2)、オーストラリア(1)、

ESOMAR (オブザーバー：1)、WAPOR (オブザーバー：1)、

ARIA (オブザーバー：1)、JMRA (同：渡部、上杉、Mr. Manoj Johri*2 3)、

UNE 事務局(1)

場 所： 東京 楽天クリムゾンハウス 会議室

*1) オーストリアとドイツは、1 つの代表国としてカウント (以下同じ)

*2) Millward Brown (カンター・ジャパン) よりオブザーバーとして参加

(2) TC225 総会

日 時： 2017 年 4 月 21 日 (金) 午後

会議名： ISO/TC225 第 11 回総会

参加者： TC225 メンバー (6 カ国+3 オブザーバー機関*、計 16 名参加)

Convenor: Mr. Don Amberse (カナダ MRIA 代表)

Secretary: Mrs. Natalia Oritz de Zarate (スペイン UNE 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、カナダ(議長国：2)、イギリス(2)、オランダ(2)、
オーストリア/ドイツ(2)、オーストラリア(1)、

ESOMAR (オブザーバー：1)、ARIA (オブザーバー：1)、(* WAPOR が帰国)

JMRA (同：上杉、Mr. Manoj Johri 2)、UNE 事務局(1)

場 所： 東京 楽天クリムゾンハウス 会議室

2. 討議／決定事項

(1) ISO20252 の改訂に関する各国コメントの検討を終了（用語の定義を除く）

- ・ 前回のマドリッド会議で検討できなかった部分を含め、改めて第3節（用語の定義）を除くすべての各国コメント（修正意見）について検討・確認が行われた。各国共に類似した修正意見・内容が多かったため、比較的スムーズに膨大な量のコメントをさばききることができた。
- ・ 日本からのコメントもその多くが採用されたが、一部には日本の解釈・慣習になじまないところがあり、翻訳の仕方での対処を考える等の対策を講ずべき箇所がいくつか残された。
- ・ わが国の公的統計のプロセス保証に関わる（一社）日本品質管理学会の『公的統計調査のプロセス—指針と要求事項(2016.5.17)』に援用されているフィールドワーク関連の項目は、ほぼ ISO20252:2012 版の記述を継承する形で存続するところとなった。
- ・ その他、修正点の詳細はここでは記述しきれないが、例えば「二次契約／外注」の項から外注（Outsourcing）という用語をすべて削除し、二次契約（Subcontracting）に統一するなど、最近のビジネス慣行に即して妥当な修正が盛り込まれたと思われる。

(2) 東京ドラフト（ワーキングドラフト第4版）に基づいて引き続きグループ作業を行う

各国の意見に対するひと通りの検討を終えたとはいえ、積み残された部分の文章化や全体を通しての文法的・校正的なチェックはこれからである。指名を受けた各グループがそれらの詳細を検討し、次回アムステルダム会議（9月）にて CD（委員会ドラフト）化を目指す。

- ・ 議長と事務局とで3節（用語と定義）の再編集版を作成する（文書中に登場しなくなったものは削除され、新たに必要となったものが追加される）。
- ・ アクセスパネルを含むサンプリング手法の付属文書は Peter 氏（ARIA）が再編集する。
- ・ 近日中に発行される ISO19731 の要求事項のエッセンスを、付属文書にまとめる。それに合わせ、デジタル以外の物理的データ収集手法を1つの付属文書に再編集する。
- ・ 電話調査の要求事項は、日本の提案をベースに Olaf 氏（壱/独）が再編集する。
- ・ 各作業グループは、5月末（または6月第1週）を締切として事務局に結果を提出する。
- ・ 英語母国語圏の代表者による編集委員会（Editing Committee）を組織し、6月末までに文法的・校正的な全体精査を行う。

3. 今後の作業スケジュール

- ① 新ドラフトを、遅くとも7月3日までに各国に回覧（送付）する
- ② 8月15日までに各国よりコメントを受け付け、8月17日には全コメントをまとめる
- ③ 2017年9月14日（木）～16日（土）に、WG1会議をアムステルダムで開催する（ここでCDを取りまとめ、TC225のPメンバーによる承認投票にかける）
- ④ その次のWG1総会開催地は未定だが、2018年の2～3月を予定する（ここでDISを取りまとめ、ISO加盟国の国際承認投票にかける）
⇒ 期待通りに進めば FDIS をスキップし、2018年末か2019年初頭に発行へ

4. 会議の状況と関連情報

(1) ISO19731 (Web Analyses) は間もなく発行される予定

- ・ 前回まで議論が行われていたISO19731はISO内部での最終確認ステージに入っており、もう間もなく発行される見込みとのこと。

(2) ISO20252 改訂についても順調に進捗

- ・ 当初設定したスケジュールを超過して活発な議論がたたかわされ、今回の東京会議を通じて基本的な論点の検討を一巡させることができた。次回と次々回の会議で概ね議論を終わらせ、2018年末か2019年初頭の発行にこぎつけるメドをつけることができたと考えられる。
- ・ なお、「ISO19731のエッセンスを付属文書として取り込む」ことが決定されたが、第三者認証時の適切な切り分けを含む区別（差別化）をどうするのか、義務的文書とするのか参照文書にとどめるのか等、十分な議論は尽くされていない。この点は具体的に文書化された再提案を待ち、次回アムステルダム会議にて検討されることになる。

(3) 関係者の「おもてなし」に深謝

- ・ 今回は実に11年ぶりとなる日本（東京）での国際会議開催であったが、海外各国の参加者からは準備段階から当日の運営全般に関して、一様に高い評価を得ることができた。

（参考までに、海外の代表13名中、パートナー（配偶者）同伴が5組あり、日本人気の高さを強く感じさせられた）。

直接ご挨拶の機会をいただいた経済産業省の皆様、最新設備の整った立派な会議室を借用させていただいた楽天リサーチ様、そしてJMRA事務局の温かいサポートに、あらためて心より感謝の意を表したい。

<TC225東京会議参加者>



以上